



うみ 海はどうしてできたの

ちきゅう すいじょうき くも 地球のまわりの水蒸気から雲ができた

ちきゅう いま やく おくねんまえ せい せい かさ
地球は今から約46億年前、びわく星とよばれる、小さなわく星の、たび重なるしょうとつにより、たんじょう 誕生しました。たんじょう 誕生したばかりの地球にも、びわく星が無数にしょうとつしました。しょうとつのエネルギーにより、ひょうめん おんど 表面の温度は、1000 ドスイーいじょう あ 以上に上がり、とけたがんせきからは、たいりょう すいじょうき にさんかたんそ 大量の水蒸気や、二酸化炭素などのガスが発生しました。

ご ちきゅう ひ ちきゅう ひ くうきちゅう すいじょうき くも
その後、地球はだんだん冷えていき、地球が冷えるにつれて、空気中にあった水蒸気は雲をつくり、たいりょう あめ ふ 大量の雨を降らせました。

たいりょう あめ ふ うみ 大量の雨が降って海ができた

あめ たいふう どしゃ おおあめ なが あいだ ちきゅうじょう
にわか雨や、台風のときのような土砂ぶりの大雨が、長い間、できたばかりの地球上に降りつづきました。そして、うみ あ 海ができ上がりました。

はじめのころの海の水は、現在の海の水と同じものではありませんでした。そのころの海の水には、えんさん りか じっけん つか つよ さん 塩酸(理科の実験などで使う強い酸)のような酸がとけこんでいたので、せいぶつ 生物はすむことができませんでした。

うみ みず いわ いし せいぶん ま すこ か
この海の水は、まわりの岩や石をとかし、その成分が混じったりして、少しずつ変わっていき、だんだんと現在の海のようにになりました。(監修・国司 真)

